

戦後にはじまった民主教育は、経済成長の中で、産業界が求める人材育成機関へと変貌してしまいました。それぞれの時代の中で、学校は、技術開発に寄与できる従順な子どもたちを育て続けてきたのです。そこでは「個人それぞれの能力」こそが問題視され、「学び」はより一層「個別化」されてきました。その一方、そうした流れになじめない子どもたち（不登校・発達障害などと名付けられた子どもたち）は、その個（子）の中に課題があるとされ、レッテルを貼られ、学びの場所さえ切り離されました。

そもそも「民主教育」それ自体を問い合わせたうえで、桜井智恵子先生は「反開発主義」を掲げます。成果や能力が強迫的に求められる社会で、自己責任と競争から逃れる道を、私たちに提示してくださることでしょう。「ポンコツ」こそがこれからの生き方なのだ、という先生のお話から、様々なことを皆さんと一緒に考えてみたいと思います。

講師

桜井 智恵子

●関西学院大学人間福祉研究科教員

専門は教育・社会学・思想史。主な著書「教育は社会をどう変えたのか——個人化がもたらすリベラリズムの暴力」「ポンコツでいこう——反開発主義による社会の再生産」



現在の学校教育の あり方を問う

—私たちは「自発的隸従」から逃れられるのか—

2026年2月15日日

13:30~17:00 (受付開始13:00)
講演会&パネルディスカッション

富士見文化会館101号室

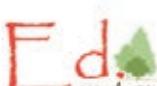
神奈川県大和市中央5-2-29
小田急江ノ島線・相鉄線「大和駅」徒歩5分

会場

一般 ● 1,000円

学生 ● 500円 (高校生以下無料)

参加費



主催・問い合わせ

NPO法人教育支援グループ Ed.ベンチャー
TEL/FAX: 046-272-8980 E-mail:toiawase@edventure.jp

